外科　外科一般
婦人科　産科　耳鼻科　花柳科
內科　×　光線科
平町字田町
（電話四七五番）

御料理仕出し
うどん　そば
天ぷら
鰻蒲焼
まつもと

貸家案內

白銀町	勤人向	六、五〇〇	
全	商人向	二三、〇〇〇	
全	全	二〇、〇〇〇	
全	仲間町	三五、〇〇〇	
全	全	三、五〇〇	
全	勤人向	三、五〇〇	
全	全	七、〇〇〇	
同	同	五、五〇〇	
同	同	五、五〇〇	
同	字柳町	六、五〇〇	
同	同	五、五〇〇	
同	同	七、〇〇〇	
同	同	七、五〇〇	
同	鷹匠町	八、〇〇〇	
同	同	六、五〇〇	
同	同	七、五〇〇	
同	同	一〇、〇〇〇	
同	同	七、五〇〇	
同	同	一〇、〇〇〇	

加藤營業所
白銀町（電話三二〇番）

御大典記念景品抽籤付特賣

特賣期間　十月二十日ヨリ
十一月九日マデ

◎特賣　品目　時計貴金屬、裝身具、蓄音器
◎抽籤　券　御買上拾圓毎に一枚添ます
御買上拾圓以下の御客樣に洩れなく景品進呈
抽籤券は貳百本を以て一組とし（いろは）各組に通用いたします
◎抽籤及場所　十一月十日磐城新聞社に於て
在平新聞記者有志立會の上施行す
◎當籤發表　十一月十一日磐城新聞紙上及
一才各位へ通知す
◎景品引換　景品は抽籤發表後一ケ月以內
◎景品に抽籤券引替に差上ます

景品
貳百本內
壹組
一等　勸業債券額面拾圓一枚宛四本
二等　復興債券額面五圓一枚宛八本
三等　糊工舍製煖爐子置時計一ヶ宛貳拾本
四等　上等メリンス風呂敷一枚宛
殘全部　電七

——一本も空籤なし——
奉祝記念として此絕好の機會を逸せず
用命の程御願いたします

金光堂時計店
平釜屋町五商店前

たいしいしい
衛生的な
滋養多き
パンパンパン

食パン　一斤　十六錢
バンヅマン
レモンワン
ミツプラムワン
ジヤムパン
松本パン
ウヅマキ
一ツ　五錢

平町四丁目
マツモトヤ
電話二一四番

當山三十九世渡邊則成和尚　十月二十二日遷化ノ處
來ル七日午後三時本葬仕候
尚同夫人雄子去ル二日死去致シ候ニ付同七日午後一時葬儀執行可仕乍略儀併セテ御通知申上候

十一月五日

平町性源寺

遺弟　宍戸正勝
法類總代　鮫島素雄
遺子　渡邊則雄
親類總代　森文一
徒總代　同

祝五週年

石城郡湯本町
入山採炭株式會社
礦業所

縣會議員
山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

伊勢參宮
京都紫宸殿拜觀
奈良巡拜
遊覽團體募集

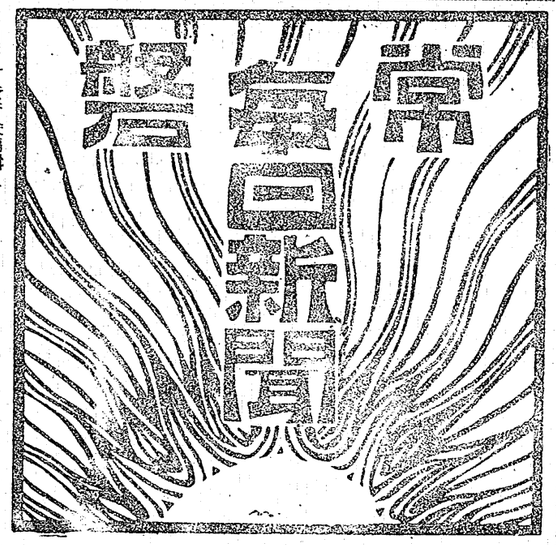
▽會期　明春二月二十日
▽會費　二十九圓五十錢
但し（申込と同時に金五圓を納入し殘額は二月迄五回に分納の事）
▽人員　二百名の豫定
▽申込　事務所　尼子亭
——通信班及び救護班を設く——
即刻申込まれよ!!
募集期間中と雖も滿員の際は締切り候
……（詳細は事務所に問合され度し）……

主催者　尼子亭　吉田直之助
會計監督　山崎清三
會計　志賀盛榮
贊助員　磐城新聞社　專務取締役　豐崎治助
後援　磐城時報社　常磐毎日新聞社

事務所　尼子亭
松ヶ岡公園內（電話二三〇番）

青物果物問屋
平町產業組合
寒風澤庄三郎
平町　長橋町

大正十二年十一月八日　第三種郵便物認可　常磐毎日新聞（第一千四百五十一號）（一）



日刊　發行兼編輯人　川崎文治　本社ト同番地（電話六三〇番）
印刷人　川崎文治　印刷所　常磐毎日印刷所
發行所　常磐毎日新聞社　福島縣石城郡平町大字平字五町目三五　電話六三〇番
定價　一部金貳錢　一ヶ月前金貳拾錢　郵稅五厘
廣告　五號十二字詰一行一日　休刊日　日曜大祭祝日ノ翌日

十一月六日　夕刊

寄書

平町追憶（一）

島田忠夫

◇友の墓

今夏、幾年ぶりに平町の土を踏んだ。丁度舊盆のころで、新盆の家毎に夥しく吊す岐阜提灯や、店先に燈籠など据えて、しつらつた築山などを、目新しくまへ感じながら、幼ない妹と町を一巡したのであつた。

まだ淺宵の街上を流して歩く、妙にもの悲しい按摩の笛も、今はこの邊にだけ殘された情調のやうで物懷しかつた。私は南國の町などを思ひ合してみた。

翌朝妹に草花を買はせた近在から、それも曉のうちから盆花を背負つて、百姓女が後から〳〵出てくる。それが決つて、彼岸花だのねぞ菊だので、今時流行の花ではない。十年も前に見かけた花である。こんな所にも平町らしいマンネリズムは動いてゐる。

その朝、私は昔の友で今は長橋の性源寺に眠つてゐるNの墓へ詣つた。Nは町の呉服屋の息子で、私とは幼稚園の頃からの親友である。まだ藤田女學校に幼稚園のある頃だつた。ある朝嬉戲するの餘り、女學校の井戸におちたことがあつた中學校も病弱の爲め中途で廢して、先年病死した。私は平町へ來る毎に必ず、この友の墓へ詣ることにしてゐる。いまは墓石も漸く土に落付いて、土を領した苔が花のつけてゐるのゝ寂しい。私はねぞ菊の花束を供へて、暫く去りがたい思がした。

看護婦派出の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

平町の……御大禮奉祝

賀表捧呈を決議し 旗行列に提灯行列 十六日に祝賀會

平町に於ては本日午後一時より役場議事室に區長を招集して協議會を開き御大禮奉祝に關する

打合せ　を遂げたが十日の御即位式當日は午前九時より町會を開き京都御所の賀表捧呈を決議し同十時より元郡會議事室に於て八十歳以上の高齢者に賜盃を傳達更らに午後二時より松ケ岡公園に町民參集遙拜式を擧げ午後三時萬歳を三唱して散會するが一方各學校生徒は夫々學校にて

擧式後　三時半より旗行列を催しまた青年團は午後二時平第一小學校々庭に集合遙拜式を擧行午後五時を期して平町役場前に各分團員參集し同六時樂隊を先頭に出發搥小路より一丁目に左折し本町通りより鎌田町に至り新川河岸を月見町に出で新川町より大工町白銀町を經て

驛前新　通りを練り南町、鍛冶町、材木町を過ぎて長橋町に入り尼子橋畔より逆行し研町から古鍛冶町に出で縣社子鍬倉神社前に到着萬歳を三唱して解散する豫定であり六七丁目、鎌田町十六區等にては華々しく

花車を　輓き出す計畫で準備中の由であるから當夜の盛況は期して待つべきものがある、尚ほ平町にては十四日の大嘗祭には子鍬倉神社にて莊嚴なる祭典を執行縣より供進使參向すべくまた十六日の饗饌日には平町役場主催にて午前十時から松ケ岡公園に官民合同の祝賀會を催す由である

平町の三料亭が 謹製の御料理献立

榮ある饗饌日に

大饗第一日の來る十六日における縣下五ケ所の賜饌中平町において行はるゝ分は賜饌係長佐瀬農務課長が四日夜來平五日午前中町役場町長室において谷口樓、住吉屋本店、尼子亭の各主人を招致し伏見町長立會の下に當日賜はるべき御料理の謹製方に就いて種々打合せする處あり當日その光榮に浴する濱三郡八百一名に對する饗饌は多分前記三名の手によつて謹製納入さるるものと觀られてゐるが御料理の献立は

鮭のてり燒、昆布巻き、菊の葉を配したる菓子、鮑の蒸し、燒鳥、燒栗豆

の以上七品に悠記田の謹作米を混じたる赤飯並に菊形紅白の御菓子である

一時沙汰止みの 競馬場設置再燃す

南町裡田甫を馬場に 石城産馬組合の腹案

平町に公認競馬場を設置せんとする計畫は先に馬目雄次郎氏其他によつて出願せるも手續上の缺陷から**却下され**　爾來其まゝになつてゐるが最近石城産馬組合有志間に設計畫說專らで本月廿五六日頃に開催する組合總會の決議に附すべく既に其腹案の如きも出來てゐる競馬場の位置は平町南裏の飯野村田市に幅八間一周八百八十間の

圓形馬場　を設くる此面積七千四十坪の外附屬敷地其他二百坪を買收し之に開場最初の賞金少なくも三千圓以上の準備迄一切を合せて出資約三萬圓に見積られてゐる

入山採炭が 出勤を奬勵

精勤者に福引

石城郡入山採炭會社は十一月一日より三十日まで一ケ月間大典記念として從業員に對し無病皆勤者に福引券をひかせ桐簞笥、長火鉢等の賞品を與へ出勤奬勵の實を擧げると

平驛に風呂

經費三千餘圓

待遇改善の第一歩として平驛では驛員家族の慰安風呂を設置することゝなり二日入札を行つたが經費は三千餘圓で現業道治療所の西隣に建設される

地下採掘問題 紛糾を豫想

最後の口頭審問

前入山坑務所長吉本眞一氏提起の石城郡湯本町地下採掘に關する行政訴訟は從來當該主務官廳と原告と從參加の立場にある湯本町と三つ巴の紛糾を繼續し來つたが右に關する最後の口頭審問はいよ〳〵七日東京麹町區紀尾井町の行政裁判所において開廷さるゝ等で同町

募集

文藝其他投稿を募集します

からは行政訴訟實行委員外多數が上京傍聽する形勢にあるが該裁判の結果によつてはその勝敗何れに歸着するも更に何等かの形式において新なる紛爭が繰返さるゝではないかと豫想されてる

小鳥の冬籠

先づお部屋の障子をはりかへて、小鳥の籠の戸は夏のまゝでは小鳥も寒くて堪へられませんから、戸には障子をはつて夕方は忘れずに閉めてやりませうそれから晝間は温かい椽側に出して日光浴をさせてやることです。併し抱卵中に餘り日光にあてさせてはいけません夜と晝との温度の差を甚だしくしない様に注意し硝子戸一枚の椽側は日中は温かですが夜は冷えますからカーテンをかけるか他へ移すか又は風呂敷でもかぶせてやる様にしたいものです、消化や骨格をよくするためにボレーや青葉や水や餌をお忘れなく與へ小鳥も冬の準備をしなければなりません

色とりぐの菊花輪 秋陽に映發して麗し

雨の岩戸其他の菊人形

目下開催中の平町御大典奉祝菊花大會は大輪菊、懸崖菊數百點が場内所狹きまでにならべられ色とりぐの配合宜しきを得秋陽に映發して眞に目を奪ふばかりである尚同地最初の試みであり多大の人氣を煽つて居る主もなる菊人形左記の如くである

天の岩戸（手力男の命猿田彦大神宇堆女の命）櫻井驛楠公父子の訣れ（楠正成同正行）會我の討入（會我の十郎祐成五郎時致虎御前）辯慶五條橋（御曹司牛若丸武藏坊辯慶）小野道風

御大禮紀念 切手と葉書

來る十日から 平局が賣捌く

平郵便局にては大禮記念として遞信省に於ては一錢五厘、三錢、六錢、十錢の四種類の記念郵便切手及び記念繪葉書を來る十日より賣り捌きを開始するが意匠其他左の如し

一、意匠一錢五厘（濃綠色）六錢（紅色）中央に高御座頂上の鳳凰を拜寫し左右に櫻橘文樣を配し御即位式紫宸殿の御盛儀奉祝の意を表はしたるものとす

△三錢（紫色）十錢（濃青色）中央に大嘗宮の前景を拜寫し配するに稻を以てし陛下親ら新穀を諸神に供し給ふ大嘗祭の御盛典奉祝の意を表したるものとす

一、繪葉書　一は即位禮紫宸殿御儀を承明門より拜したる圖にして岡田三郎助氏に囑して謹寫し二は大饗第一日の儀に饗宴場の舞臺に於て奏せらるゝ五節姫の圖にして舞姫の唐衣の文樣など迄此度更に御治定のものに基き結城素明氏に囑して書きたるものなり貳枚壹組賣價金拾五錢

一、注意今回の記念郵便切手は配給高に限があり且一般公衆の需要頗る多かるべきを豫想し成るべく多數の希望者に行き渉る樣一人一回の賣捌高に制限を設くることあるべし

一、特殊日付印の使用　平郵便局に於ては來る十日より同十四日迄の間料金を完納したる郵便繪葉書及其の希望を以て局窓口に差出したる料金完納の書狀（無封の書狀を除く）の引受消印に使用す前記の使用當日及び十五日より同十七日迄の期間料金完納の郵便葉書に對し記念消印使用當日以外は（使用最終日の日付を使用す）の需に應ず

一、日付印の意匠は紫宸殿の御儀に用ひさせ給ふ大錦旛中の靈大と大饗の殿内に設けられたる鵄太鼓を圖案化せしものなり

菊花品評會開催 菊人形陳列

會場＝元石城郡役所前

是非御觀覽を乞ふ

主催　平町菊の會